

施策評価表

京 都 府 南 丹 市
作成日：平成22年7月13日

平成22年度(平成21年度実施)

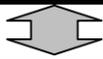
評価施策名	2 鉄道をさらに便利にする	施策CD	32	施策主管部	企画管理部	部長名	井上 修男
政策名	第3章 人・物・情報を高度につなげる			施策関係部	土木建築部・八木支所・日吉支所		

【施策の概要】

1 南丹市が考える理想(目的)

目標項目(成果)	単位	H20	H21		H22	H23	H24
		実績値	目標値	実績値	目標値	目標値	目標値
市内JR各駅の1日の乗降客数(前年度実績)	人/日	14,186	15,000	15,337	15,000	18,000	18,000

○ 流入人口や定住人口を増やし、活気のあるまちづくりを進める。



1 南丹市の現状(課題)

- 毎時3 - 4本の運転がありながら、夕方のラッシュ時にさえ30分近くも列車間隔が空く時間帯があり、不均衡なダイヤとなっている。
- 大都市圏の都市交通の機能を担うには満足な運行形態とはなっていない。
- 利用者は、平成台の分譲開始や学生の増加等に伴い、ここ近年増加傾向にある。

(現状)

・市内各駅の1日平均利用者(乗降者)数合計
平成12年 平成13年 平成14年 平成15年 平成16年 平成17年 平成18年
14,197人 14,340人 14,340人 14,663人 14,849人 14,529人 15,581人

2 対策をしなければどうなるのか

- 京都市内等で就学または就職する人が、市内近郊に居住の拠点を移す。
- 南丹市の居住者人口は、減少してゆく。
- 定期交通が確保されないことから、観光客が減少する。
- 南丹市の活力は失われる。

4 それらを解決するために何をするのか

- ① 鉄道利用者を増加させる。
 - ・JR山陰本線の複線化促進
 - ・園部駅以北の利便性向上に関する活動
 - ・公共交通ターミナルの機能強化
 - ・駅周辺の環境美化の推進
 - ・鉄道利用の利便性向上
 - ・鉄道利用客の増加に関する様々な取り組みの実施

3 それは何故おきたのか

- 住民の移動手段が、鉄道主体からマイカーへと移り変わってきた
- 旧国鉄時代は、あくまでも長距離特急や長距離普通列車を中心に運行されていた。
- 京都近郊の通勤通学の需要がほとんど考慮されていなかった。

【施策コスト】(評価対象事業の合計)

		単位	H20	H21	H22	H23	H24
決算額(計画額)		千円	28,956	411,725	57,967	29,351	29,351
財源内訳	使用料・手数料	千円	19,104	77,066	19,835	19,835	19,835
	国・府支出金	千円	0	6,520	23,959	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	9,852	328,139	14,173	9,516	9,516
職員従事人数		人・年	4.71	4.75			
人件費		千円	16,002	16,369			
事業費総額		千円	44,958	428,094			

【施策目標の達成に貢献度の高い事業】 全 9 事業 単位:千円

事業名(細事業名)	決算額	うち一般財源	
		うち一般財源	うち人件費
地域活性化・生活対策事業(山陰本線複線化整備事業)	378,196	319,562	1,275
地域活性化・経済危機対策事業(JR八木駅整備計画調査)	6,672	1,652	1,275
都市整備事業(園部駅周辺維持管理・整備事業)	7,632	6,009	2,094

【前年度の評価】(要約)

【総合評価】

- ① 目標の達成状況
南丹市民の永年の念願であった、園部・京都間の複線化事業が平成21年度で完成する。未だ計画すらない園部・綾部間の複線化要望を促進強化していく必要がある。
- ② 目標値や施策の考え方の見直し
園部・京都間の複線化の完成に伴い、JR利用者増のために駅周辺整備も併せて進めてきたが、再度考え直す必要があると考える。さらに、園部以南と以北の交通格差の解消策を併せて検討する必要がある。

【改善の方向性】

- ① 今後の方向性
全国的に鉄道利用者が減少傾向にある中で、南丹市民の念願であった複線化事業の完成により、さらに鉄道利用を便利にするために駅周辺整備や駅関連施設の充実を図っていく必要がある。
- ② 各事業の対応
山陰本線複線化整備事業は園部・京都間は完成するが、園部以北の複線化促進を強化する必要がある。駅関連施設については、駅機能だけでなく複合施設として活用されている。更に活用を検討する必要がある。また、駐輪場については駅整備と密接な関係があり、併せて整備を検討する必要がある。

【評価を受けて取り組んだこと】

- ① 山陰本線京都中部複線化促進協議会を中心に、JR西日本に対し、改正ダイヤの利便性向上と園部以北の複線化促進要望を行った。
- ② 鉄道利用者の利便性向上を図るために、JR八木駅等整備計画調査を実施した。今後調査結果に基づき、関係機関との協議を進めていく。

【今年度の評価】

【総合評価】

- ① 目標の達成状況
平成22年3月に永年の念願であったJR山陰本線園部・京都間の複線化が完成し、大幅なダイヤ改正が行われた。これにより園部・京都間の利便性は格段に向上した。園部駅での乗降客は増加傾向にある。また園部以北の接続利便性の向上により時間短縮が図られた。
- ② 目標値や施策の考え方の見直し
園部・京都間の複線化の完成により、今は乗降客が増加傾向にあるが、利便性の向上により、特に学生等の流出も懸念されるが、今後より一層の駅周辺整備を進めて行き目標値の達成を図る。

【改善の方向性】

- ① 今後の方向性
園部以北、園部・綾部間の複線化促進活動を強化すると共に、現状のJRダイヤの利便性の向上、駅及び駅関連施設の更なる整備を進めて行く必要がある。
- ② 各事業の対応
八木駅舎・園部駅東口広場整備の具現化に向けた関係機関との協議を進める。現駅関連施設の管理については、利用客の満足できる管理の向上を図っていく必要がある。駐輪場については、利用者の利便性向上の図れる管理体制を検討していく。